

実施報告

留萌市立潮静小学校

*学級数 7 *児童数 80

支援員勤務学校名	職名	氏名	専門分野
北海道留萌千望高等学校	教諭	清水 遼	化学

【本事業のねらい】

小学校第5学年「ものの溶け方」の単元において、「溶けている物の取り出し方、結晶等の科学的な言葉、メスシリンダー等の実験用具の取扱い方について振り返り確認するとともに、塩化アンモニウムの飽和水溶液をゆっくり冷やしたときの様子を観察し、『再結晶』という現象を理解すること」をねらいに、身近な材料を用いた観察・実験についての教員の指導力の向上を目的に実施した。

【実施内容】

2月21日 13:20~14:55、潮静小学校理科室において、潮静小13名、幌糠小5名の児童への公開授業形式により、4名の教員を対象に、小学校第5学年「ものの溶け方」の小単元目標と学習内容、指導上の留意事項を確認した後、モール等を用いた「ブローチづくり」を行った。



【本事業での主な参加者の声】（アンケート記述から一部抜粋）

- ・大変勉強になった。港町の子どもらしくミョウバンとウニの加工を結び付けていたが、身近な素材を使用してのブローチづくりは取り組みやすく、児童の反応も良かった。特に、公開授業を通して、実際に自分自身が授業実践を行う際の留意事項を確認することができた。
- ・実験の途中観察の仕方として、試験管に液面の高さに水で濡らしたティッシュペーパーを巻き付けると再結晶の様子が早く観察できることを知ってとても参考になった。とてもわかりやすかった。
- ・高温の飽和水溶液を冷やし、再結晶する様子を観察するときに、温度と物の溶ける量の関係に着目させるなど、観察のポイントについて今後の授業実践において非常に参考になった。
- ・指導助手の先生がおり、TT指導の在り方や指導のポイントについて、とても勉強になった。同時に指導力の向上を図っていかなければならないことに改めて気付かされた。

【来年度以降の実施に向けて】

本校教諭が、指導するに当たって苦手意識をもっている領域等について、指導方法の改善を目指した研修を行っていきたいと考えている。